

町政座談会（矢上地区）

日 時 令和7年1月14日（火）
18：30～20：00
場 所 矢上交流センター

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長をさせていただいております大屋光宏です。就任して以来、皆さんの声を聞かせていただいて、それを形にしたり、町の情報を出すと共にという話をしてきました。町政座談会を開催するにあたって、この時期になりまして、大変申し訳なく思いますが、こうやってたくさん集まっていただきまして、大変ありがとうございます。

本来ですと、1月の半ばから2月の半ばにかけて、こういう会を夜にしたくはないし、天候が非常に悪い時期なので心配していたんですが、どうしてもこの時期しなくて、させていただいております。ご理解をいただければと思います。少しでも早く開催するというので、時間は6時半に設定させていただいておりますし、極力早く終われるようにと思いますが、1時間半程度と思います。帰り道が心配なところもありますが、気を付けて帰っていただいて、有意義な時間が過ごせればと思っております。

先にレジュメの話をしますと、一番下に町長への手紙と書いています。皆さんの声を聞きたいということで、12月の広報ではわかりにくかったかもしれませんが、町長室に直接届くFAXがあります。それと役場の玄関先に意見箱があります。ご案内はしましたが、実際に誰もFAXもお手紙もくださる方もありません。なかなか今の時代にFAXというのは難しいのかなとも思いますし、わざわざ書いて役場まで持ってくるんだったら、直接しゃべればいいのかもありません。その手間もあります。

利便性が高まるわけではありませんが、このQRコードを読んでもらえば、システムを使うことに同意しますかというのがあって、その後は、お名前等を書いていただいて、ご意見を書けるようになっております。お名前とか住所とかは任意の設定にしております。必ずしも書いていただかなくても結構です。ただ、町との関係で、町民かそうでないかだけ書いていただいて、最後にタイトルを入れて意見を書いていただければと思います。こういう場で、みなさんの前ではしゃべりにくいという方もいらっしゃると思いますので。家に帰ってからゆっくり記入していただいて、何でも結構です。タイトルも「座談会」でも「あ」でも何か一文字入れておけば、送れますので、ご協力いただければと思っております。

私事ですが、町長にならせていただいて2ヶ月ちょっと経ちます。昨年内は、非常に行事も多くて、自分の生活のパターンのリズムが取れないこともありました。年末年始9日間、お休みがありました。こういう場で話をさせていただく町長の立場が日常なのか非日常なのかはありますが、やはり皆さんの立場に立って物事を判断するという意味では、自分の日常も大事ななと思っています。自分のことをする、家族のことをする、地域の皆さんと触れ合うということが、町長の立場になると、日常ではなくなってきた、町側の人間、皆さんに意見をいただいても、町の立場としてでしか返事ができないということになります。

12月議会をさせていただいて、議員の立場から、こういう逆の立場になりましたが、町長の立場になって思えば、議員の皆さんのご意見はもっともです。皆さんの代表であって、地域で生活しながら、皆さんの声を聞いて届けておられるので、そこに間違いがあるとか、そういうものじゃないです。逆に言うと、できない、予算もあって難しいのをどうやってお断りしなきゃいけないのかなという。全てが全て正しいので、受け入れたいんだけど、いろいろな事情があって。町長の立場でお答えさせていただいたんですが、そうですねと軽く言ってしまったら、課長から怒られるかなという立場もあって、なかなか難しいですが。でもやっぱり、議員の皆さんというのは、やはり皆さんの代表である。日常生活をきちんと送りながら、地域に根ざしながら意見をさせていただいているのかなと思っております。

町長が、現場主義かどうかということはあるんですが、やはり日常を知らなければ、災害があったときだけ行っても分からないんだろうなと。今、東北の方が大雪です。ビニールを取ったハウスも潰れています。普段の状況を知らなければ、災害に遭ったところだけ見てもどう直すのか、なぜ起こったのかということが分からないのかなと思います。そういう意味では、極力日頃の日常なり、こうやって皆さんと顔を合わす、意見を交わすという場を大事にしていきたいと思っております。

座って話をさせてください。今の町の状況ということで、私が作った資料で、今後取り組んでいくことを書いております。いろいろなことを書きながら、今日は臨時議会もありましたので、その後、課長の皆さんは役場におられますので、その後には課長会議をして、一通り見ていただいて、議論して修正したものです。

財政の状況とか人口の状況を、きちんと数字で表せたらいいかなと思いましたが、そこを出すと一枚に収まらないので、まず取り組むことを書きました。財政については、役場に入って思ったのは、道の駅、中学校、邑智病院と、大型事業が続いていたので、財政的な負担もあります。そこに人が関わって仕事をしているので、その負担も大きい。中学校と邑智病院については、ほぼ見通しがついているところだと思います。道の駅は、今年度中の完成ですが、まだ最後の詰めが必要なところで、人の負担も大きいものがあると思っております。

併せて矢上で言うと、霧の湯を香木の森一帯で指定管理していますので、4月から霧の湯がきちんと再開できるように、今日の臨時議会も工事費の増額ということで4月の再開に間に合うように、急遽、臨時議会を開いて予算的な裏付けをしながら、工期をきちんと確保できるようにさせていただきました。まずは、今行われている事業がきちんと完成するというのが、私自身の現在の大きな仕事です。

併せて来年度予算を作成中ですが、国の予算ができて、今、県の予算が公表等されてきているのだと思います。それを受けて町がしますので、取り組んでいくことと書いていますが、町の予算をこういう形で少し予算化できないかなと考えている時点なので、「来年これを絶対やります」「予算として、今やっている最中です」というものではないということをご理解ください。どうしてもかかる経費が決まっているので、新たな取り組みをするためには、何かをやめなければ予算が捻出できない状況です。まずは最低限やらなければいけないことで予算を組む。その中で、今後しなければいけないことを上乘せしていくという作業の最中です。

来年度にやらなきゃいけないけど、事業化できるかどうかは別にして、来年、再来年の中で取り組まなければならないということで書いています。

最初が、財政再建・行財政改革ということで書いています。一番最初に、小中学校の統廃合と書きました。12月議会でも非常に唐突じゃないか、今までこういう

話をしていなかった中で、町長が替わったら突然出てくるのかという話もありました。人口の全体は減っていて、お子さんの数も減っているけれども。具体的な数字で言うと、今の小中学生は一学年、約70人ちょっとです。小学校6年と中学校3年を足すと、9年間なので、 7×9 で、約650人です。今の保育所の0歳児から、保育所におられるお子さんは町内全部で300人です。いずれ、この子たちが小学校1年生から6年生になったときに、今450人くらいいる小学生が300人ちょっとになるということです。併せて、今生まれているお子さんは、約40人前後です。今年度は、今のところ12月までで28人なので、40人いないかもしれないです。

そういうことを思えば、小中学校の統廃合はしなければいけないんだけど、あまり数字できちっと示すと、今年間40人前後ですといえれば、町内で小学校一つ、中学校一つでいいんじゃないかということにはなりますが、それはUターンとかIターンがあれば別なので、まずこれからの邑南町の教育としてどういう形がいいのかという中で統廃合を考えていければと思っています。

それに併せて、児童クラブは時代的に必ず必要なものです。それは小学校ごとにつくるのか、矢上とか日和とか日貫とか地区で必要なのか。今の状態の児童クラブの数なのか、統廃合した学校の数でいいのかということも考えなければいけませんし、給食センターも一緒かなと思っています。このあたりは早く来年度、再来年度できちんと答えを出していきたいと思っています。

行財政改革はしなければいけない絶対的なことですが、これは副町長を中心のプロジェクトチームで、今年から1月、2月からスタートできればと思っています。公共施設も統廃合しなければいけないというのは、皆さん何となく分かっている、昨年の意見交換会は、各地区ごとに地区にある公共施設を、「これだけありますかどうか。ずっと必要ですか。」という投げかけがあったと思います。

それで、今日のお話は邑南町全体での話です。自治会館は統廃合、なくしていくというよりはまずはコミュニティの再編ということがありますので、公民館単位で自治会が統合されれば、自治会館は必要なくなってくる。具体的には、井原であるとか、今動きがあるのは日貫であるとか。矢上はまだこの動きがないので、そこがあつてからの自治会館の統廃合、もしくは廃止だと思ってください。

斎場についても3カ所ありますが、必ずしも3カ所必要じゃない時代が来るんだと思います。この辺りも少しご理解いただければということで書いてあります。

一方で、今までなかった考えなんですけど、似た施設が複数あるとか、無くせばいいけれど使わなくなった施設をどうするのか。ただ、撤去しておしまいなのか、新たな活用策があるのかということで、遊休公共施設の新たな活用策というものも考えなければならぬと思っています。

例えば、学校を統廃合したときに使わなくなった校舎で企業誘致したり、室内で野菜の生産をしたりということもあります。体育館も似た体育館がたくさんあるけれど、同じ体育館なので、使用目的を変えた体育館があってもいいのかもしれない。冬場に屋外でスポーツができないので、グランドゴルフができるとか、サッカーができるとか、そういう体育館に変えて使用を増やしていくということも考え方としてあるかと思っています。壊すだけでなく、他の使い方はないかという活用策の検討も必要かなと思っています。

あとは、公営住宅の運用の見直しと若者住宅と宅地の確保ということで、過去から邑南町は公営住宅の充実で進めてきましたが、どうしても制度が今変わって、町

営住宅は基本的に一定の所得以下でないと入れないです。若い人たちが結婚して、新たな新居を求めたときに、条件的に町営住宅はたくさん空いているけど入れない。民間住宅はあまりないので、所得制限がある町営住宅で、国の補助金を受け終わったものについては、一部、運用を見直して若い人たちが所得関係なしに入れるということで使えないかと思っています。

併せて、空き家活用を含めて、住宅と宅地の確保が必要だと思います。今日も、川本の〇〇病院の方が来られて話をしている、人を採用したいけど住むところがないという話です。邑智病院もそうです。すごく不思議ですけど、町営住宅はたくさん空いている。空き家もたくさんある。だけど住める場所がないというギャップがあるので、まずそこを少し整理できればと。定住なり雇用の確保という面ではいいかと思っています。

産業振興については、基本的には町内の経済循環を進めたいというのが基本的なスタンスです。そう思うと、おおなんさくらカードが上手く活用できないかという思いがあります。昨年度、経済対策でポイント何倍という事業をしたことがあると思います。さくらカードにポイントをつければ、それはそのまま町内消費に結びつく。他では使えないので、まずはさくらカードを使えないかと思っています。

今、図書館で本を借りると一冊につき1ポイント付くそうです。そういう形で、例えば行事に参加したときに、極端ですが、今日のようなこういう会に出ただけで何ポイントかを付ける。それはそのまま町内消費に結びつくとか。ポイントで人の参加をつのるのがいいかどうかはありますが、そういう活用に仕方もあるかなと思っています。産業振興については商工会もありますので、商工会で活動が充実できればと思います。

所信表明でも、農業については技術の振興という話をしましたが、12月議会でも暑さ対策の話が出ました。その暑さ対策の技術があるので、まずはそれをどうやって伝えるのかということで、ケーブルテレビの活用をもう少しできないかなと思っています。元々、ケーブルテレビは農業関係の予算も使ってつくったものですので、お悔やみとかのチャンネルメニューに、営農というメニューを入れて、例えば相場であるとか、今やらなきゃいけない技術とか、台風が来れば注意してくださいとか。文字放送で出しているものをメニューとしていつでも見にいけるという形は、一つの情報提供かなと思っています。

雇用の確保については、資格の取得支援であるとか、働く人の確保対策ということで、これは積極的に進めなければいけないと思っています。ただ少し検討が必要だと思っているのは、資格を取るのに、どういう応援が一番いいのか。今は、ほぼ職場で、個人の負担で取りに行っているものについて応援する。もしくは、今資格を持っている人を雇いたくてもいないので、個人でお願いするか、企業が雇われて、どこかに派遣しながら資格を取ってもらう。給料だけは払いながら、自分のところの仕事をする前に、どこか他の会社で働いて資格を取って戻ってきてもらうという形にしていますので、そういう形で企業の負担を何とか応援できないかなと思っています。それはそのまま下にありますように、矢上高校の卒業生、石見養護学校の卒業生の町内定着に結びつけられればと思っています。

矢上高校については、3月の受験が終わる度に、「倍率が何倍でした」「1倍を超えていました」「定員を充足しました」と言っています。先ほど言いましたとおり、町内の生徒は、中学生が70人80人の中で全てが矢上高校ではないということ、県外からの生徒も含めて定員を満たしています。毎年、町外や県外から一定

数に来ていただきながら、みすみす町外に出て行かれる。若しくは、地元に戻られるということで、邑南町内で働く人が増えているわけではない。せっかく、矢上高校や石見養護で学んでいるなら、それが一定数、町内でどこかで働いたり、出られても帰ってきていただける。若しくは、高校を出てすぐ町内でのということもありかなと思っています。

ただ、そのときに必要な資格や能力を企業等が応援して学べる環境をつくっておられるなら、それに対して町が応援することによって町内で働くことがもっとできればと思います。それは、その下にあります邑南町を支える人材の育成と奨学金の見直しをいうことに繋がっています。雇用の確保ということと、若い人たちに町内に定着していただけるようにということで、ふるさと教育を見直すと共に、邑南町で生活することによって、働くことによって人生をどう送っていかれるかということをもっと示しながら、町内で働くことをと。大学進学負担軽減ということもありますが、奨学金の見直しによって、そういうことも必要かもしれませんし、必ずしも大学や専門学校に行かなければ資格が取れない職種もありますが、そうでなければ、大学や専門学校に進学しなくても、邑南町内で働けば、「邑南町内で就職すれば人生がしっかり送れるよ」「資格を取るのも応援があるよ」「学ぶことの応援もあるよ」という在り方も必要かと思っています。すぐにできることではないんですが、そういった検討もしていければと思います。

そのあと2つは産業振興の関係ですが、農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策ということで、何度かお話をしたことがあります。山林等を含めてしっかり管理できないと農地も維持できない。鳥獣害の被害もあるということで、総合的な対策で今まで個別にやっていた事業を少しまとめて整理できればと思っています。

観光ビジョンにつきましても、道の駅も新しくなる、香木の森も霧の湯が再開する。羽須美では、三江線の跡地活用も進んでいるということで、町内の周遊と近隣からの誘客をもっと進めたいということで、今ある観光ビジョンをまず見直したいと思っています。

インバウンドについても少し書いてあります。あまり積極的な姿勢ではなかったんですが、松江、出雲、津和野方面もかなり来ているようです。今、スキー場も運営されていますが、外国の方でスキー客も一定数おられるようです。そういう方たちを呼び込むなり、定着するにはどうしたらいいかということは、将来のためにしっかり検討していきたいと思っています。

その下が、保健医療福祉の充実と書いてあります。日本一の子育て村というのは、今後どうすべきなのか、目指す方向はきちんと協議していきたいと思っています。

併せて、福祉施設の在り方というのでも書いています。民間がされることが多いですが、そこに敢えて町がどう関わるかというのはありますが、人口は減ってきているけど、高齢化率は45%でほぼ変わっていません。ということは、65歳以上の人口は増えていない、総人口が減っている以上、高齢化率が上がっていかかわらないですが、現実的には、65歳以上の人口も減っているというのが現状です。そう思えば、福祉施設の在り方、働く人の確保も含めて、町が責任を持って検討していかなければいけない事項だと思っています。

その他については、地域内の見守り活動の強化ということで、公用車での安全パトロールのマグネットを作成してつける。人口は減っていますが、世帯数は大きく減っていません。それは一人暮らしの高齢者も増えてきているという現状がありま

す。そうすると、そういう見守りをどうするかというときに、町は郵便局等にいろいろと協力をお願いしていますが、町としてもできることはしていかなきゃいけないと思っています。

併せて下に、老人クラブ、一人暮らし世帯の社会参加、つながり活動の強化を書いています。先ほど言いましたとおり、高齢化率は変わっていないので、65歳以上の方は増えてはいませんが、その人とたちが地域に対して、それぞれが活動に積極的で健康に暮らせるというのは町としても大きいので、老人クラブであるとか、一人暮らし世帯の社会参加、つながり活動の強化と書いていますが、この活動をしっかり応援していかなきゃいけないと思っています。

あとは、100歳大学と書いてあるのは、12月議会で提案がありました高齢者の方が元気で長生きできるための学ぶ場を作っていく。邑南町としては、それぞれの課でそういう活動はしていますが、それが体系的にできればいいと思っています。

その下は、邑南町のもう一つの特徴は、全体的に一人の医療費が安いということです。あとは、それぞれが病院にかかる医療費は、県内の中でも安い方の自治体です。原因はいろんなことがあるかもしれませんが、日頃の検診だとか邑智病院や地域医療の日頃の活動、あとは診察の受け入れ、アドバイス等が大きいのだと思います。

そういう中で、課題だと思うのは、40歳、50歳代の特定検診や一般の検診の受診率が低いです。そのあたりを向上するために、特に人間ドックの受診率が低いので、何らかの対策ができればいいかなと思いますし、国保加入者については、特定検診、一般的な検診は40歳以上です。30歳以上は、町独自の対応をしていますが、20代の方の検診は全くなくて、ここが受けないか、JAさん等がされる場所に受けに行くかという状況です。医療費全体が抑えられて、かかりつけ医ということで地域の病院でお世話になりながら治療ができるというのが一番いいと思います。見つかったときには手遅れじゃないけど、対応が難しいので、県外の病院に行ってくださいというのは負担も大きいので、そういう意味では、受診率の向上は考えていければと思っています。良い面はしっかり維持できればという考え方です。

その他については、その下に地域活動と書いていますが、部活動の地域移行の準備ということで書いています。学校の先生の負担を減らすということで、部活動は土日の活動は地域へとあります。ただ一方で、今現在も地域で小学生からの活動の支援もしていただいています。2030年に国スポが島根県で開かれます。それまでに地域移行という話がありますが、地域移行の計画を作りました。準備ができました。さあ、移行しますというときには、指導者をそこから探すなり、育成するでは間に合わないの、計画はまだ作っていませんが、計画作成と併せながら指導者の育成や、今活動されている方々のハード整備なり必要な整備を同時並行でできればと思っています。

最後に3点ほどしゃべらせてください。12月議会にも一般質問がありまして、私自身も、役場職員、公務員は副業、兼業をしてはいけないと思いましたが、今は許可を受ければできるそうです。地域の中で人手が足りないということで、全てを公務員の方ができるわけではないですが、積極的に関わっていただきたい。役場で働いていて、まだ他のことをして金を稼ぐのかという見方じゃなくて、地域で人手が足りないから関わりながら、尚且つ、本人にとっても役場の中の他の人の仕事にも感心を持つとか、地域の皆さんの生活や働くことに感心を持つということで副業が進められればと思っています。地域貢献であるとか、それぞれの能力アップとい

う意味で、副業を進めることができればと思います。 隠岐の島の海士町は制度として作られています。名前は忘れましたが、最初から副業する公務員ということで雇われているので、正職員という形ではないですが、役場で働きながら一定数、地域で働く。地域で人手が足りないところをカバーするという考え方もあります。長野県では、2割程度は他の人の仕事や地域のことをしましよとあります。

いずれにしても、地域の人手不足やこれから何をすればいいのかというときの個々の職員の能力アップを兼ねて、副業をきちんと制度的に進めていければと思っています。

併せまして、今、こうやって皆さんの前でお話をしていますが、きちんと町政座談会は定期的開催できれば、毎年一回はという意味です。以前は、女性の会ということで開催した時期もありますが、今はしていません。女性の会がいいのか、例えば福祉で働く人の会であるとか、年齢で区切るのもいいと思いますし、地域で区切ってもいいかもしれません。何らかの形で皆さんと意見交換できる場を増やしたいと思っています。

その目的の一つは、皆さんの思いを聞くということと、もう一つは町としていろいろな場面で審議会を作ったり、会議をしますが、そのメンバーを探すのに非常に苦労しています。人材発掘という意味でも、いろいろな会議を開きながら、町と住民の皆さんの人脈をつくりながら人を紹介していただいて、今まであまり表に出られなかった人でも出てきていただいて、新たに町に関わるメンバーになってほしいということで、住民の皆さんとの会を積極的に開催できればと思っています。

もう一つは、自治体連携と書いています。言うまでもなく郡内では事務的なものは邑智郡総合事務組合ということで協力しています。病院についても、邑智病院は邑南町だけじゃなくて、邑智郡の病院として協力して運営しています。消防は、江津と一緒です。

そういう中で、浜田市、江津市との連携と書いています。これは産業振興の面で連携できないかなと思っています。今は、浜田市と食の関係の協定を結んでいますが、これから先ほど言いましたように観光や産業、企業誘致で広島側から松江、出雲側がというときに、浜田市、江津市と協力してできればいいかなと思っています。町単独で難しいところは協力しあえればと思います。

もう一つは、三江線跡地活用ということで、邑南町は羽須美でトロッコの運行を頑張っておられます。今は、三江線の跡地はそれぞれの自治体で何らかの形、地域それぞれの地域の人たちが個別に頑張ってお客さんを呼んで活用されているんですが、そこで沿線自治体で協力し合えれば、もっと長い距離で運行ができたり、お客さんを呼ぶにも有利かなと思うので、沿線自治体で連携できれば、三次市も含めて江津市までの間で連携できればもっと活用ができるかなと思っています。

一方的にお話をしましたが、まず私からのお話は以上にさせていただきます。あとに、質問等がありましたら、その中で答えさせていただきます。ありがとうございました。

2. 教育長あいさつ

改めましてこんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいいたします。日頃より、学校、あるいは公民館に本当にご支援ご協力をいただいております。充実した活動を送らせていただいております。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私からは1点、カラー刷りの印刷物を一枚用意させていただきました。これをこ

覧いただければと思います。開いていただいて、A3全面に印刷されているものを表にさせていただければと思います。左の方からご説明申し上げます。

コミュニティスクールという言葉が、まず最初に出て参ります。これは、学校と地域が将来に繋がるような制度設計を今後やっていきますという、一つの言葉だにご理解いただければと思います。

現在においても、邑南町は学校と地域の連携強化が非常に充実している、進んでいるものだと思います。それをしっかりと将来に繋げていこうという意味合いでご説明申し上げたいと思います。

本日は、学校サイドから見てお伝えしていきたいと思います。それで、左の上半分ご覧いただければと思います。オレンジで4つの枠がつけられていますが、これはキーワードだと思っていただければと思います。

まず最初が「連携・協働」、右にいきまして「社会総掛かり」、左下に「共有」、右に「地域と共にある学校づくり」と4つの言葉が出て参ります。これを一つのキーワードとしてまずは覚えておいていただければと思います。

その下ですが、コミュニティスクールとはというところで、「学校運営協議会」を導入した学校と示されております。この学校運営協議会の中身については後ほど説明させていただきたいと思います。

左の半分下ですが、これは文科省がお示した一般的なコミュニティスクールの絵ですので、またご覧いただければと思います。中心にあたるところが学校運営協議会です。その学校運営協議会がどんな役割を果たしていくのかというのが、右の方になっています。コミュニティスクールの主な3つの機能ということで、オレンジ枠で3つ掲げております。まず、今までと違って新たに出てきたのが、校長先生が毎年作成されます学校運営の基本方針を承認するというのが、非常に大きなポイントになって参ります。今までは地域におかれまして、学校の方針は校長だより等では示されると思いますが、そこで議論して地域共有の基にそれが決まっていたか言ったら、そうではないということで、ここが一番大きなポイントになるかと思っております。

2番目、3番目についても書かれております。もちろん、承認を得るわけですので、地域の方々にもある意味、子どもを中心に据えたときにしっかりと責任をお持ちいただきながら、学校と共に運営していくという姿がイメージできるのではないかと考えております。

裏面になりますが、左半分をご覧いただければと思います。コミュニティスクール導入のメリットとあります。これも2段に分かれて書いてありますが、まず、学校側としてこの制度を取り入れたときにということで、中ポツで6つほど示してありますので、またご覧いただければと思います。これが学校側としては、地域と共にある学校づくりを進めていくということでございます。では、そのオレンジの下の部分です。地域側がコミュニティスクールを導入するメリットと書かれております。今度は少し表現が変わりますけれども、地域サイドにとって学校を核とした地域づくりという視点で取り組んでいただきたいと思います。この2つが相まってコミュニティスクールのメリットとご理解いただければと思います。

それと、最後になります。半分より下です。邑南町のコミュニティスクールのイメージはということで、これはあくまでもイメージとしてご覧いただければと思います。邑南町としては各小中学校のそれぞれにこのコミュニティスクールをつくるのではなく、9年間を意識した、或いは、中学校卒業時にどんな力をつけていた

きたいのかというところを、学校や地域であったり、共に共有していきながら、この9年間のイメージを持っていただくということで、先ほど説明いたしました学校運営協議会というものを各中学校区に設けて、小学校中学校共に9年間をイメージしていただきながら意見を交換していくとスタイルを現時点で考えております。

今後につきましては、来年度1年かけて邑南町のこのイメージをしっかりと地域の皆さんと共有する、ご理解いただく、さらには各中学校区で同じような形になるとは思っておりません。それぞれの地域に応じた形を築いていただきながら、実施としては令和8年度の起ち上げを目指して1年かけてしっかりと協議させていただきたいと思っております。

本日は、一番最初の入り口の部分をお伝えしました。コミュニティスクールが何となく、来年度1年をかけて協議されるんだなということで、お帰りいただければ喜ぶます。また意見等ございましたら遠慮なくおっしゃっていただければと思います。以上で私のお伝えしたいことは終わりにしたいと思っております。ありがとうございました。

3. 意見交換

大賀総務課長 続きまして、意見交換の時間とさせていただきます。皆さまからご意見ご質問をお受けしたいと思っております。挙手をしていただきますと、マイクをお持ちしますので、お一つずつご質問ご意見をおっしゃっていただけたらと思っております。よろしく願いいたします。どなたからでも構いませんので、よろしくお願いいたします。

- 矢上地区の と申します。町長さんの話で、地域活動のところ部活動の地域移行ということをちらっと触れられましたけど、部活動の地域移行につきましては、もう3、4年前からずっと部活動を地域移行しなさいよということが国の方から示されて、それなりに町でいろいろなことでやられてきていると思うんです。

私が、体協のことをやっている関係で、部活動の地域移行のことについて、いろいろな皆さんの意見を聞いたり、学校の様子知らされるかなと思っていたら、なかなかそういうところまで会合が進まなくて、地域移行という名前だけが一人歩きしているような格好が今まで感じております。

ですが、先ほど教育長さんもコミュニティスクールということで地域とのふれ合いを大切にというようなことがあったんですが、これは部活動の地域移行とコミュニティスクールの地域との連携をとらないといけないというのは、全く違うものではないかと思うんですが。どちらにしても地域の方が中学校に関わるにあたって、保護者で子どもさんが中学校におられる方は中学校の様子がそれなりに理解できるのかなと思っております。中学校が新しくなりました、私どもは中学校に子どももおりませんし、中学校の様子も全然分かりません。そういうことで、こういう話合いのときに、資料とかで前もって示されればいいのかと思っております。部活動の関係と、それからそれ以外では、コミュニティスクールという格好での、これは授業に関してなのかわかりませんが、そのへんの関係性というのはどのように考えておられるのでしょうか。

大屋町長 最初に部活動の地域移行という話をさせてください。言葉だけは何年か前から出ていたと言われたとおり、議会でも何年か前から質問があったのを聞

いていました。町長の立場になってやっとわかったのは、国で話があって県の計画がないと、町はなかなか動きにくい。それで今、国が計画を作られて、県がこの1月に策定をされるんだと思います。12月くらいからパブリックコメントというがありました。それ以前に邑南町が先に動く方法もあるのかもしれませんが、県が計画を作られて、その中で動くということが多いので、言葉だけが先走りしていたのかもしれませんが。

ただ一方で、国や県が計画を立てて、町を立てて、最後の締め切りは2030年となってくると、実際に動く現場は時間がないので、ちゃんと情報を仕入れながら動いていかなければいけないということで、計画作成と指導者育成をセットで、来年度以降に進めていかななくてはいけないと思っています。

地域移行と言いながら、地域の皆さんもいろいろな期待があって、今すでに小学校なりクラブチームなりで、地域でスポーツの指導、文化活動などいろいろな指導をしていただいている方がいます。その人たちにとっては、施設整備や指導者の報酬等の話、そこに対する期待もあるんだと思います。皆さん、ボランティアでやっていただいているのは重々、承知しています。

ただ、建前上の地域移行は、平日は学校で、土日のいずれかを実質半日で。今、部活動は国や県の指針でも土日のいずれか1日のうち、時間は3時間程度となっています。計画がある以上、その範疇でしか動けないので、その中でまずは考えていきたいと。部活動自体が、そういうものになりつつあるので、そういう情報提供もしながら動いています。

それで今、さんが言われたとおり、体協、スポーツ協会で若干名前は違うんですが、以前で言う体協があるので、少し体協の皆さんとも相談させていただきながら地域移行を。まずはスポーツ面、それ以外に文化的な活動もありますので、そういうところできないのかな。それと併せて、私の思いじゃないですが、ハード整備じゃないですが、地域の皆さんがお世話になっているところの施設です。というもの、少し古いものがあれば直していかなきゃいけないと思いますし。吹奏楽部についても楽器が古いというものがあります。財源があって、国から補助があるわけじゃないですが、地域移行と一緒にそのへんまで検討、研究ができればいいかなと思っています。なので、今から体協の皆さんなり地域の皆さんに情報を出しながら、早い段階で進めていければという状況であるということをもまずご理解いただければと思います。

大橋教育長 コミュニティスクールと地域移行との関係性ですが、まずはコミュニティスクールのシステムとしては動いておりませんが、土壌というふうにお考えいただきたいと思います。いずれにしても、コミュニティスクールも先ほど言い間違えましたが、社会総掛かり、或いは、地域総掛かりという土壌がないとコミュニティスクールも上手くまわっていきません。

そういった意味では、地域の皆さま方にご協力をいただかないと、いずれにしても部活動の地域移行も同じでございます。指導者不足というが出て参りますので、そういった意味ではコミュニティスクールも含めて地域にしっかり受け皿として受けていただきながら、学校と共に子どもたちをどう育てていくのかというところをもまずご理解いただきたいと思っております。

大屋町長 たぶんお話のもう一つは、コミュニティスクールなり学校が地域と関わったときに、学校の様子がわからないというお話があったんだと思います。保護者なら学校の様子がよくわかりますが、子どもが卒業してしまえば関わりが薄

くなってくる。

その中でまず情報提供なんだと思いますが、高校は早くから、こういう形の体制をとっていますから、地域の方の応援団やいろいろなことで関わっていただいています。保護者である間に保護者が頑張ればいいのか、その保護者が全てを負担するのではなく、少し地域の方も協力し合うことも必要かと思います。そのためには、学校の様子を伝えることが、コミュニティスクールに変えるまず第一歩かなと思っています。学校の様子が分かるということも、積極的に進めていきたいと思っています。

- ありがとうございます。

大賀総務課長 他にございませんでしょうか。

- すみません、 と申します。霧の湯の薪ボイラーは、今日の臨時議会で、今度の4月からいくということのようですが。薪は重油に比べたら安いのか、それとも町の脱炭素ということの施策の中での発想なのかということと。その薪の確保はそうなんですか、例えば、町に廃材が出ますよね。ああいうものを自分である程度の規定のものを自分で持って行ったら、使ってもらえとか、業者のものでなければ使えないのか。そんな考えはあるかないか、どんなですかね。

白須副町長 副町長の白須と申します。私から今の状況を説明させていただきまず。香木の森公園を4月から再オープンさせるということで、そこに霧の湯の含めてということになります。霧の湯につきましては、燃料価格の高騰を受けて休館としておりましたが、その間に、燃料費を地元の資源で賄えることができなかつたということで、それによって経費を抑えることができないかという議論からスタートして、薪ボイラーを整備しようという方針の説明をさせていただいております。

薪は、ご存じのように邑南町の86%を森林面積が占めております。豊富にある資源ということで、また町が進めております脱炭素の取り組み、CO2の排出を抑えていこうという取り組みにも繋がってくるものでございます。単純にものを燃やすので、CO2を増やすんじゃないかという議論もありますが、しっかりと木を使うことによって、森林整備を進めて森林のCO2の吸収力を高めていこうという意味で、薪ボイラーの整備を進めております。

最初の質問でございますが、経費の削減もありますが、それと併せて脱炭素を一つの町の取り組みとしてしっかり進めていきたいという考えで、今、薪ボイラーの整備を進めているところです。

それから、燃料になる薪ですが、今回、薪ボイラーの整備と併せて、民間の林業事業体が主導で、薪を製造する薪ステーションの整備をしておられます。ここでは、林業事業体から原材料を集めるということもありますが、規格とか1回に受け入れる量の問題もありますが、個人の方からもそういった要件が整えば、受け入れは可能と聞いております。

また、そういった事業がスタートして、薪の受け入れが開始される段階になりますと、また事業体の方から、或いは町からもいろいろな形で皆さんに薪の受け入れの方法など、周知させていただきたいと思っておりますので、今しばらくお待ちいただきたいと思っております。

- 単純な話だが、火力にはならんが、はでぎがいっぱいあるわね。ああいうものが、例えば、もう倒れそうではでぎばかり残っておるが、自分である程度の長さで切ることができて、それをどこか持って行くところがあれば、ちょっとずつ

でも、ああいう何か、一人ではとてもできんかもしれんが、持って行けば置くところでもあれば。空き家の廃材はごつ過ぎるからやれんが。以上です。

白須副町長 今、いただいた意見をちょっと参考に協議させていただきます。ありがとうございます。

- 今、霧の湯のことを言われましたが、僕も霧の湯のことはちょっと気になっていたもので、お聞きしたいんですが。この4月オープンということは、現在1月ですが、指定管理で今井産業の関係の方がやられるということを知ったんですが。それで、今から4月オープンだとすぐですので、来店客数、利用客数とか、当然そのへんも読んで、エネルギーも用意されていると思います。

ちょうどこの1月の正月に安来のしらすぎ温泉というところに行ったんです。これも指定管理で、あそこで聞きますと、正月の一日、二日に、1日で約500人くらい来たそうです。というのも安来市がその温泉のパスポートを市民は半額じゃないですけど、そういうパスポートを配っているらしいです。それで、そのお客さんが相当来たということを知っていますので、具体的に考えますと、4月オープンということになると、当然、今回運営される今井産業グループの方が、どのへんまで考えて、どうやっていこうかとほぼ分かります。そのへんが、もしわかれば、教えていただければ嬉しく思います。

白須副町長 はい、今 さんが言っていたように、4月からの指定管理者については、江の川さくらライン機構という今井産業が主体になった関係事業者の共同体が指定管理を受けて、4月オープンに向けて準備を進めておられます。この決定までの間に、2社から応募があって、それぞれに運営計画を提出していただいている、審査会を開いて、内容をしっかり審査をして点数化して決めております。それで、事前に提出していただいた計画の段階では、入り込み客数、あるいは収支の計画をそれぞれしっかり立てておられます。

それで、今日はどれぐらいの利用見込みかというところは数字まではお応えできないんですが、一年間の収支を立てて、これならやっていけるということで提案をいただいていると認識しています。

それから、この霧の湯につきましては、やはり町民の福祉のためにというのを一つの目的として整備した温泉施設ですので、町民の方にもしっかり利用してもらいたいと考えております。この部分につきましては、まだ町の予算要求の段階でございますが、町民の利用者向上につながる何らかの支援が。そこはちょっと町長の考えを説明させていただきたいと思います。

大屋町長 収支は収支で、あとは条例で料金も決まっていますので、その上下2割の中で決めるようになっています。今、検討しないといけないと思うのは、皆さんの反応もすごく気になるんですが、先ほど、浜田、江津と協力したいと言った中で、似たような温泉施設もあります。いろいろできるといいと思うんですが、入湯税については、浜田市は日帰りの場合はいただけていないです。宿泊の場合はいただく。議会の一般質問もあって、全国的な流れはそういう感じです。

今、町民の福祉向上と言われたとおり、福祉向上が目的で入湯税をいただいているのかどうかという課題があります。そういう意味で整理をしながら、まず町民の皆さんに使っていただくのが第一で、そこに誘客を進めていくということをしていかなきゃいけないので、日帰りの利用と宿泊で分けながらというのもあるかもしれません。

一方で、公園管理を含めた指定管理料は支払いますが、それは公園と香夢里と

バンガローと全部が一体なので、その中の運営なので、赤字が出ても救う方の範疇です。ただ、3年目からは内容によっては納付金をいただくようになっていきますので、その辺も含めながら運営ができればと思っています。

- 例えば、広報の2月号くらいで霧の湯のオープンが4月ですということをしっかり出されんと、町民もそこまでわかっていないもので。楽しみにしとるはずで。その辺を読むと、最低も2月号くらいに間に合えば、それを表紙の一番前に出してもいいですし。大きな楽しみだと思しますので、新町長、一つよろしくやっちゃったら、すごく受けると思しますので、頑張ってください。

大屋町長 霧の湯も過去にいろいろな経緯があって、コロナ禍のときにはあまり皆さんの反応がよくなったんですが、それが過ぎたら、あそこはいつ再開するのかというのは、町内の皆さんも言われますし、仕事で邑南町を訪れる方からもいつ再開するのかと言われます。期待は大きいと思しますので、ご意見をしっかり踏まえてアピールしていきたいと思っております。ありがとうございます。

大賀総務課長 ほかにございませんか。

- 矢上の です。町長になられてから、初めて大屋町長の顔をお伺いしまして、最初に言われたこの紙なんですけど、すごく町長さんの意欲を感じています。ただ町長は4年ありますので、あまり焦らず、やれるものから無理せんようにやっていただければと思います。

特に、行財政改革は急がなくてはいけないと思いますが、例えば、小中学校の統廃合や、公共施設のことですとか、その辺りはじっくりと据えて考えていかないといけない問題かと思うので、来年度中に何とかという道筋はつくるにしてもあまり焦らずじっくりやるところはじっくりやって、無理せずにつずつ、くたびれずに町長の思いを実現していただければと願っておりますので、頑張ってくださいというだけです。

大屋町長 ありがとうございます。町長になっていろいろな数字とか状況を聞いたときに、もう少し、いろいろな取り組みをしておけば、段階的にできたんですが、やはり急激に人口が減ってきて。もう突然に例えば、社協が石見では来年度からデーサービスを止めます、訪問介護を止めますというような状況で、やはり1年、2年の間にしっかり取り組まないと、そのしわ寄せが一気に突然町民の皆さんに出てくるような状況があるので、やはり取り組まなければならない、変えなければいけないというところは、皆さんにしっかり理解していただいて。

ちょっと段階的に変える余裕があるものと全くないものがあるのかなと思っています。そういう意味では、早く変えなきゃいけないものはしっかりやっていきたい。しなければ皆さんに迷惑がかかるのでという思いがあります。ただ、気張らずに頑張ります。ありがとうございます。

大賀総務課長 ほかにございませんか。

- 町東の と申します。矢上高校のことでちょっとお聞きします。先ほど、町長さんが申されましたが、矢上高校は町あつての矢上高校であり、また矢上高校あつての町かもしれませぬ。そういうことで、これまで矢上高校と地域の未来をつくる会というがございまして、住民を含めて、いろいろな形で支援をしようじゃないかという組織です。これらのことを、またこれからもきちんと続けていけるかどうかということを確認したいんですが、いかがでございましょうか。

大屋町長 元々、私自身も矢上高校の卒業ですし、子どももそうでした。PTA

会長もさせていただいた中で、地域に矢上高校は絶対に必要なものです。地域振興所という話もありますが、今の時代、いろいろ関わってみて初めて分かったのは、高校は義務教育ではないけれど、実質、今は義務教育のようなもの。ほぼ100%高校に進学されるということは、無くなれば進学に対する負担が出てくるという意味では、地域にとってあって当たり前。義務教育と一緒にだと思っています。

そういう中で、早くから振興会等があって、今で言うとコンソーシアムですかと言ったんですが、コンソーシアムとは何だと、言葉が難しいんですが、矢上高校と地域と未来をつくる会ということになっています。当然、しっかり支えていきたいと思っています。

若干、余談もあるんですが、今、町長になってあらゆる部分で、町長以外の兼務の仕事はお断りさせてもらっています。例えば、おおなんきり、電気の会社です。これは町長として兼務できるほどの簡単な会社ではない。やはり専門の人がおられて、きちんとされるべきという意味です。いろいろな面談というのも、町長が出てくると私個人の思いの方が強くなって、皆さんの意見が聞けなくなるので、極力、避けさせてもらっています。

コンソーシアムについても、できれば今まで町長が会長だったんですが、交われればいいなと思っています。その意味は、逃げるんじゃなくて、町としてしっかり支えます。補助金なり、人的バックアップをする側と、受ける人が一緒なのはおかしいよねと。町の姿勢としてはきちんとしますが、その代表は、一般の方なり、町民の方がなられて、引っ張っていかれるのがいいかと思っています。

ちょっと、別の場所でも言いましたが、人材の発掘ということもあって、いろいろな役割を町民の皆さんにもしていただいて、町はそこをしっかりと支えていくというのがいいかなと思っています。応援するというのは、全く変わりなくさせていただければと思います。よろしくをお願いします。

大賀総務課長 ほかにはございませんか。

- と申します。今、高校のことが出ておりましたが、高等学校ができましたときに、私の母はもういないんですが、高校ができるときには、自分たちは80日くらい無報酬で校庭を広げたりしたという話をしております。学校がなくなるようなことは、残念だと思います。私たちが学校に行きましたときには、同級生の中で、まだ校庭に石がありましたので、ほごう等を背負って行って石を拾ったりしたんです。よくできる人は、矢上高校に行くと、作業があるから嫌だと言って、よくできる人は浜田高校へ行かれたりしたようなことでした。先祖の人が心配して、高等学校を開かれたので、なくなるようなことは絶対していただかないようにと思います。

それから、今日の話には全然出ないんですが、町を歩いておりますと、大変良い田んぼが草だらけになって、何も作っていないようなところもありますので、これは残念だと思うんです。

この大耕というのが、邑南町の一つの雑誌になったんですけど、その中に、口羽の棚田、こいきちさんという方ですが、そこの方には、田んぼに水がなくて、山なんだそうです。それで、春に雨が降らないと田植えができない。秋に降れば、稲刈りが大変なんですけど、まず雨が降ってくれなければ、水の出るところがないというような山の方に住んでおられるそうです。時々、この雑誌に書いておられるんですが、この方は野球も熱心なそうで、広島を応援しておられます。そし

て、広島から田植えに来られるんだそうです。手伝いに来られた方に、お米をあげるので、新米の味を覚えられたのか、田植えをしてくれと言われると、快く参加されるそうです。

去年の大耕の中でも、今年はどがあなかいなと広島から田植えの応援に来られるそうです。それで、今は畦もコンクリートにしたし、機械が出入りするところは道を良くしておりますので、大型の車でも出入りできるようにしていると言われるんです。どんなわけで水がないのかわかりませんが、とにかく山なので、春に雨が降らなければ田植えができないということを嘆いておられます。何とか、田植えができると、秋には広島の人にお米をあげらるのに、新米の味を覚えて、快く皆さんが今年はどがあなかいな、田植えができますかいなという声が掛かるそうです。そうして、来られるようなことが書いてあるんです。そんなに、山の中で水を貯めるところがないのかどうかわかりませんが。そうして、こんな話を聞いて、町を歩いてみると、あちこちに良い田んぼがあるんですが、コンクリートの溝もあって、水に苦労するようなことがない田んぼで稲を作っていないところがたくさんあるんです。それで、何とか声がけをしてもらって、協力ができるなら、協力したりして、休んでいる良い田んぼを何とか作っていただきたいと思っております。

大屋町長 ありがとうございます。高校については、皆さんのいろんな思いがありますし、地域の思いもあります。そうは言いながら、やはり町として応援するのに、先ほども少し言いましたが、矢上高校の卒業生の方が地域でたくさん働いて活躍してもらっている。その姿に対して、また応援しようということは必要だと思っています。

この秋に役場に入られた方で、町外から矢上高校に来て野球をされて、学校を出られて、またこの地域でということで帰ってきていただいたということもあります。その姿に対して、皆さんが共感していただいて応援しようと思っただけければ、予算も付けやすいし応援もしやすいと思います。その流れを大事にしていきたいと思っています。

田んぼについては、おっしゃるとおりで、昔から苦労して田んぼをつくられて、水田を維持してきたということ言えば、どこの地域もそうですが、ものが作られなくなり荒れてく姿というのは、人の活動が見えないので寂しいと言われます。昨年の秋から米の値段も上がってますし、野菜の値段も上がっています。もう少し、皆さんに意欲が出て、来年はちょっと増やそうかな、荒れたところを作ろうかなという思いが見えるかなと思いましたが、なかなかそういう声が聞こえて来ないということは、やはり年も取られているし、そこまで意欲が持てるほどの元気もなくなってきたということがあるんだと思います。

農業振興のところはあまりたくさん書いていないんですが、道の駅もできます。良くなります。売るチャンスはいっぱいあるし、価格的にも今はいいときが来ていると思います。しっかりと、この波に乗って、耕作放棄地に意欲的に手を出して作っていただければいいかと思えます。

邑南町は、農業者が減っているというイメージがありますが、専業で若い人と言えば、神紅であるとか就農者が20代、30代は増えています。自分のことだけじゃなくて、少し意欲的にそういった土地にも何らかのことをしていこうと思えば、人はいるのでそこをしっかりと支えていければと思います。皆さんにとっては、誰かがものを作っている姿、水田が青々として、秋にはしっかり米が実っ

ている姿は、作られない方にとっても田舎の風景として、大事なんだと思います。そういう意味でもしっかり支えていきたいと思っています。ありがとうございます。

大賀総務課長 ほかにはございませんか。

- 座ってごめんなさい、言わせていただきます。 です。よろしくお願い致します。今後、取り組んでいくことということの中で、具体的に書かれてくださるので、よく分かったんですけど、一つ、保健医療福祉の充実というところの欄で、日本一の子育て村の在り方と福祉施設の在り方の検討ということ、これとても大きな言葉で具体的にここには出されていなくて、今から検討して行ってくださるのだろうと思うんですが。

今は、本当に高齢化が進んでいる中で、団塊の世代の人、私も含め全てが80代になろうとしている中で、少子化はどんどん進んでいるということ。先ほど、町長さんもデイサービスのことを具体的にお話されましたが、本当に今の介護保険制度の中での、運営や在り方なども含めて、いろいろな意味でとても大変な時代がきていると思います。少子化の中での子育てそのものが昔は、こどもは元気でたくましくという感じでスパルタ的な教育をされる中で、たくましく育てていたような気がしますし、私たちの子育てはそうだったかんじです。今は、そうではない、そこに一言で片付けられない、子育てについてのいろいろな悩みを抱えたお母さん方、家族の方に、状況が出ていますし、このデイサービスにおいても、人材をどう確保していくかということも大変な問題を抱えているという現状があります。

その中で、日本一の子育て村ということが今後どうあっていったら一番いいのかという思いをいつも持つんです。福祉をものすごく尊重してきたこの邑南町が、子育て日本一の村と統合していく、一緒に考えていけるという方法となると、最終教育と福祉がどう協働していくか、このことを考えていかなければ、いろんな意味での解決は出てこないような気がするんです。

それで、具体的なところで、今どんどん子どもたちが少なくなっていく小学校のことも含め、保育所も同じだと思います。それと、この高齢化に対しての対策というものもどう解決していったらいいかということを思うと、どこかで教育と福祉は協働していかなければ成り立っていかないんじゃないかと思います。このコミュニティスクールの中にも入り込んでいくんじゃないかと思うんです。どんどん少なくなっている子どもたちの世界、教育の世界と福祉を合体していくことの中で解決策があるんじゃないかと思いますし、新しい邑南町というものをそこにつくり上げていくことはきっとできると思うんです。

子どもたちの、ただ一貫的な教育ではなく、もっと伸びやかな自然の生かされたフリースクールという言葉で片付けられるのかちょっと未だ分からないんですが、何か子どもたちがもっと解放された自由な中でのびのびと尚且つ、しっかり勉強もできるような学ぶことの喜びをしていけるような子育てができる環境づくり、居場所づくりもこれから、もっと地域と共に考えていかなければいけない時代がきているような気がするんです。

そんな意味で、ここの検討という言葉の中にこれからを託して、お願いしたいと思ひまして、全然まとまっておりますが、よろしくお願いいたします。

大屋町長 ありがとうございます。役場の中だけで話をするのか、どうしようかと思ひながら、今、お話を聞いています。やはり皆さんでという中です。敢え

て、そこを並べたのは、それぞれに課題があってというところはあるんですが、支える側、子育てをされている若い世代は、そのまま福祉施設の担い手の中心でもある。子育ての負担があれば、働くことができない。やはり、子育てと地域の特に福祉施設での人材確保は重要かなと思っております。子育てを地域総掛かりいではと言っていますが、その地域総掛かりということはどういうことであって、今、いろいろな問題が、お子さんが親であり地域の人と関わる、お話をするようないろいろな関わりが少ない。育てればいいというわけじゃないんだと思います。

そういうことを含めてお子さんの教育、成長と、保護者の負担、その人たちには子育てもしてもらいたいし、地域の働き手として中心的な役割もお願いせざるを得ない状況を思えば、今、お話していただいたように、教育と福祉と併せてなり、全体の中でもう少ししっかり議論していければと思っています。ありがとうございます。回答も中途半端なところがありますが、気持ちは十分理解できましたので、それをどういう形で議論するかをもう少し時間をかけて考えさせてください。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました時間にそろそろなります。最後にお一人、どなたかこれだけは言っておきたいということがございましたら、お願いしたいんですが、いかがでしょうか。

それでは、たくさんの方から、ご意見ご質問いただきました。ないようですので、終了したいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。限られた時間ですので、質問や意見が言えなかった方もいらっしゃると思いますが、冒頭に町長が申しました町長への手紙とか、それ以外の電話とかメールとか、いろいろな方法で結構ですので、いろいろな質問ご意見をいただきたいと思います。

最後のあいさつということでございますが、少し厳しい話をさせていただくかもしれません。現在、町では新年度の予算編成を進めております。今日もいろいろな課題のお話をいただきました。そういった中での、大屋町長は初めての予算編成になります。しかしながら、厳しい財政状況というのを言っておりますが、職員には毎年、予算編成にあたって方針を示します。その方針、重点項目の内容も今年は財政再建というのを一つの大きな方針として予算編成を行っております。今まで行ってきた事務や事業を検証して、段階的に行うところもありますが、見直すところはしっかりと見直していくという姿勢で作業を進めております。

新年度においては、事務事業の見直し、或いは、廃止等を町民の皆さんの生活、事業活動に少なからず影響をきたすことがあろうかと思いますが、こういった点につきましては、こういう理由でこう変わるという説明をしっかりとしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

その際には、様々な意見を頂戴したいと考えております。いただいた意見については今後の参考とさせていただきますので、しっかりと意見を言っていたいただきたいと思います。

また、中長期的には、小中学校の在り方の検討、或いは、地域コミュニティの再編等を進めておりますが、これらにつきましても町民の皆さんと必要な情報をしっかりと共有しながら、皆さんと協働で進めていきたいと考えておりますので、

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、お仕事お疲れのところ、また非常に寒さが厳しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございました。お帰りの際には、交通安全に気を付けて事故のないようにお帰りいただきたいと思います。本日は、長時間にわたり、様々なご意見をいただき、ありがとうございました。以上で、本日の矢上地区の令和6年度町政座談会を終了させていただきます。ありがとうございました。